



洋書輸入協会会報

Vol. 28 No. 4 (通巻323号) 1994年4月

東京国際ブックフェア (TIBF) '94

去る1月27日～30日に幕張メッセで開催された「東京国際ブックフェア94 (TIBF94)」は、ようやく本格的なトレードフェアとしての第一歩を踏み出したようである。前回は「国際」と銘打ち、多くの海外出版社の出展をみたものの従来の「読者謝恩」色が濃厚で、海外出版社が期待した「トレードの場」には程遠いBFであったことは記憶に新しい。この反省にたって今回は会期4日間の内後半2日間を一般公開日とし、前半2日間を「商売」に専念出来るようにしたことが「トレードフェア」らしくした大きな要因の一つであろう。海外出展社の評価も概ね“Good!” “Beautiful!”であった。幾分外交辞令があるにしても、評判が悪くなかったことは確かである。

事務局 (Reed) 発表によれば、出展社数は国内369社 海外467社 (29ヶ国・地域)、来場者数は4日間で合計26,548人 (国内24,670・海外1,878) であった。[因みに、前回の出展社は654社 (国内548・海外106)、来場者約18万人 (5日間)]

前回に比べて来場者数が大幅に減ったが、その最大の要因に地理的条件があげられるだろう。都心から30分足らずとは言え、気軽に立ち寄れる場所とは言いがたい。本好き、愛書家と言えども何か強い目的意識がなければおいそれと足を運ぶ気になる距離ではないと感じた。

海外出展社数は前回の4倍以上となっているが、招待

券裏面のリストで見るとかぎり実際には出展していない出版社がかなりあったようである。また、国内出展社リストでは出版物一点のみの出品で“出展”と数えたフシもある。虚数とは言わないが、解説を加えなければならぬような数値は如何なものか。

前回までのBFの恒例として洋書のバーゲンセールを協会会員が開催し好評を得てきたが、今回は一般公開が2日間のみ、しかも地理的なハンディによって一般読者の来場に多くを期待できないとあって開催を見送った。この「洋書バーゲン」は和書の即売会と共に当初から企画の俎上にのぼらず、会期間際になって開催を打診されたが、上のような状況に加えて準備時間不足のため協会として対応できなかった。察するに、売れ残りのブーススペースをそれに充てようと言うReedの目論見だったようである。とは言え、「洋書まつり」が四半世紀にわたる歴史の幕を降ろした後、それに代わるものの要望が依然根強いと聞く。洋書と読者を結びつける場と機会を提供するものとして、多少の持ち出しも覚悟でBFで開くか、「協賛」などの名目でBF会期中に足の便の良い都心で催すか、或いはBFとは全く別個に企画するか、協会の『事業』の一つとして、改めて取り組んでは如何であろう。

会場を一巡して気になったことが二つ。その一は、ブ

東京国際ブックフェア'94.....1	文化厚生委員会だより 3	東京の坂と橋と文明開化(44)7
東京国際ブックフェアセミナー ...2	洋書輸入通関統計 (前編).....4	広 告8
理事会報告3	お知らせ6	

ース配置に出展者の専門分野が殆ど考慮されていないこと、その二は国内出展者が会場中央に集まり、海外出展者が周辺に配置されていたことで、出展社、来場者いずれにとっても不親切ではなかったか。次回からは事務局任せにせず、主催者側もブース配置に関与すべきであろう。

去る2月23日に開かれた TIBF 運営・実行委員会の席上“TIBF95”は'95年2月下旬、幕張メッセで2ホールに規模を拡大して開催する予定である旨事務局より説明があった。再び主催者団体の一員として、積極的に参加するかどうかも含めて、今後わが協会が TIBF にどのような係わるべきか、一度見直す必要があるように思う。

(丸善・洋書センター 高橋 紘 記)



東京国際ブックフェア (TIBF) セミナー

幕張メッセで1月27日から4日間開催された東京国際ブックフェアは、JBIA メンバーの出展者の方々の概ね期待(?)通りの結果だったようです。このフェア中に4つのセミナーが開かれましたが、その1つ、開会前日に行なわれました“海外出版者向セミナー：Selling Foreign Books in Japanese Market-Challenges and Opportunities”に、司会進行役およびパネリストのお顔ぶれに引かれて参加させていただきました。

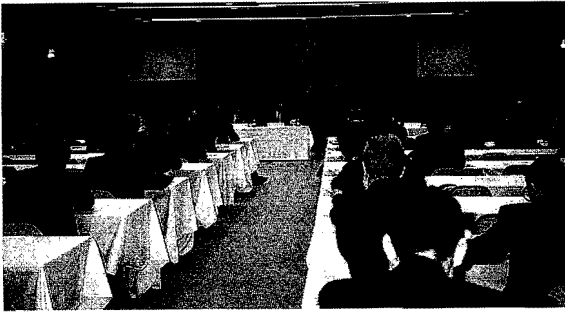
司会進行は UPS の斎藤社長、パネリストはフランク・フォーリーさん(ハーバーコリンズ)、葦名部長(紀伊國屋・洋書店頭部)、平瀬部長(丸善・洋書センター)そしてニコラス・イングルトン社長(チャールズ・イー・タトル)。フォーリーさんは出版社側から、日本のマーケットの特性をいかにつかんで promotion を効率良く行なうかをアドバイス、葦名部長は日本の最大級のお店で顧客と向かい合っている立場から、小売最前線での洋書の動きを豊富な経験をもとに解説、平瀬部長は通関統計や大学・学生数また大学予算の変化等のチャートやグラフを駆使し、Academic book のマーケットについて説明、最後にイングルトン社長は、日本での流通の鍵を握る wholesaler の立場から、どのように wholesaler/distributor を活用しマーケットに参入す

べきかをアドバイス。1時間30分には収め切れない豊富な内容で、後半の方たちの時間が押し気味だったのが大変残念でした。それでもさすがに斎藤社長、スミーズにスマートにまとめ上げられました。

出席者は70名弱だったでしょうか。多いのか少ないのか判断の基準がありませんが、予想よりすくなかったとすれば、これは主催者側のセミナー内容の announce の遅さ、日程の設定(開会前日の小間装飾・搬入日)、および海外出展者への参加 free のお知らせの遅れなどによるものでしょう。また、TIBF 自体の性格が鮮明でないことにも起因するように思われます。アジア各国の出版社にとっては著作権ビジネスが main のようですし、欧米の出版社は JBIA 会員を通して既にビジネスは確立しているところが殆どですから、セミナーの対象が定まっていなかったということもあるのではないのでしょうか。

JBIA の主催ではありませんでしたが、こうして JBIA の経験豊かな方々により知識・経験に基づいた know-how やアドバイスが提供されることを、一会員として何となく嬉しく誇らしく思えたセミナーでした。

(A. G.)



理事会報告

3月15日(火)

(一) 2月分収支報告

3月11日(金)付、総務委員会で審議の総務委員長報告を承認した。

(二) 常設委員会編成案

先の理事会にて総務委員会案として提示され基本的な考え方として了承した来期発足の常設委員会の再編について総務委員長より趣旨説明がなされ、再度審議し承認した。

文化厚生委員会だより

第71回72会ゴルフコンペ

高根カントリークラブ 1994. 3. 10(木) 参加者 27名

本年度初めての72会のコンペの為か、総勢27名の賑やかな会となりました。

前々日來の雨の為、フェアウェイに水がたまり、完全武装でのスタートとなりましたが、予報より早く天気が回復、前半は総じてスコアが悪く、後半に期待がかかりました。

コンディションの悪い中、何年振りかで参加された、大阪厚生社の谷口定三さんが、2位に3点差の、ダントツ優勝をされました。2位には、最近調子が悪いと嘆きながら、プレーをしておられた、ユサコの和田実さんが入賞、3位は、前回も3位の丸善OBの三宅昭三さんが入賞されました。

61回～70回の優勝者による取り切り戦は、優勝三宅昭三さん、2位紀伊国屋書店の吉本明城さん、3位丸善の中田安昭さんが、接戦の末決定しました。

27名による表彰パーティは、楽しく、賑やかに、和気藹々と行われました。

(三) 94年度予算案

総務委員会にて審議し提出された94年度予算中、理事会員の会費値上げ額、理事会費、人件費について修正し承認した。

(四) イ 故飯泉前丸善会長密葬の弔問に対し中田理事長代理より謝辞と本葬の案内があった。

ロ G. Lingenbrink 社、Mrs. Marga Winkler 他の訪日にあたり、理事長代理より当理事会メンバーとの懇談会を5月11日に設ける旨の報告と出席要請があった。

ハ 協会事務所の賃借契約を現状据え置きで更新したことが総務委員長より報告され承認した。

アンケートにご協力を

本号に「はさみこみ」の、会報についてのアンケートにご記入のうえ協会事務所宛お送り下さい。

一社一枚にこだわらず、このアンケートに回答してやろうというお方がいらっしゃいましたら、何名でも結構です。用紙をコピーしてお使いください。

ご回答は5月10日までをお願いします

今回は、72会の記念すべき72回目(20年間)のコンペになるとの説明が、ゲーテ書房の村山新吾さんからあり、和やかな内にも閉会となりました。

(記：名著普及会小関妙子)

成績表

優勝 谷口 定三(厚生社)

2位 和田 実(ユサコ)

3位 三宅 昭三(丸善OB)

4位 吉本 明城(紀伊国屋)

5位 日和田早苗(紀伊国屋)

ベストグロス賞 日和田早苗(紀伊国屋) 90

ドラゴン賞 村上 道夫(東京ブックランド)

中田 安昭(丸善)

ニアピン賞 三宅 昭三(丸善OB)

佐川美貴夫(三善)

1993（平成5）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（前編）

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

大蔵省関税局から、1993（平成5）年1～12月の日本貿易統計が発表されたので、その中の洋書関係の数字をピックアップして表示すると共に、若干の分析を試みたい。

1. 1993年1～12月、書籍・雑誌の輸入通関統計表

（表1）書籍

（単位 百万円）

品 目	'92.1～12月 価 額	'93.1～12月 価 額	前年比	構成比
単一シートのもの	100	114	114	0.5
辞典及び事典	456	547	120	2.3
その他のもの	26,041	23,448	90	97.2
計	26,597	24,109	91	100.0

（注1） 書籍とは、「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない）」を対象とする。

（注2） 単一シートものは、折り畳みであるかないかを問わない。この分類は'88より新設のもの。

（注3） 辞典及び事典には、シリーズの形式で発行するものを含む。この分類は'88より新設のもの。

（注4） 「その他のもの」が、いわゆる一般の書籍である。

（表2）新聞・雑誌その他の定期刊行物

（単位 百万円）

品 目	'92.1～12月 価 額	'93.1～12月 価 額	前年比	構成比
一週に4回以上 発行するもの	101	107	106	0.7
新聞	27	13	48	0.1
雑誌その他の定期 刊行物	19,232	15,808	82	99.2
計	19,360	15,928	82	100.0

（注1） 新聞、雑誌その他の定期刊行物は、挿絵を有するか有しないか、または広告を含んでいるかないかを問わない。

（注2） 「一週に4回以上発行するもの」は、'88年より

新設のもの。新聞ではない。

（表3）書籍・雑誌の合計額

（単位 百万円）

品 名	'92.1～12月 価 額	'93.1～12月 価 額	前年比	構成比
書 籍	26,597	24,109	90.6	60.2
新聞・雑誌	19,360	15,928	82.3	39.8
計	45,957	40,037	87.1	100.0

（注1） 価格はCIF又はC&Fである。

（注2） 小額貨物の20万円以下は含まれていない。

（注3） 書籍は、現品入荷月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

（注4） 雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約1年遅れで計上されている。

〔分析〕

(1) 書籍、新聞・雑誌の合計輸入額は、12.9%のダウン長引く不景気と異常な円高というダブル・パンチの下では、1993年の大幅ダウンは寧ろ当然であろう。輸入額400億円は、過去5年間では最低の数字（表4参照）であるし、1980年比では13年間に18%しかアップしていない。その上に円高差益の還元ということで、約1割前後の値下げをしているようであるから、同業各社の経営も苦しかろうというものである。

(2) 17%の円高

1993年の各国為替相場の平均値前年比を、その国からの年間輸入額の構成比によって加重平均し集計した洋書業界の円高率は、17%に及ぶ（表7参照）。これは1986年の18.4%の円高に次ぐものである（表8参照）。

この円高を勘案すると、洋書の輸入額は17%ダウンしても良いところを12.9%のダウンに止まっているから、海外出版社のインボイス価格では差し引き4.1%アップしていることになる。しかしこれは数字の上の話で、日本の国内では円価格だけの問題になってくる。

(3) 不振の中でも書籍は健闘

書籍だけを取り上げると、9.4%のダウンにとどまっている。この原因の一つは、3月にパルコ・ブックセンター渋谷店の中に洋書ログスが、約80坪に美術、建築デザインなどの洋書を陳列し、7月には横浜のランドマークプラザに有隣堂が、100坪余の面積に4万冊余を備える専門洋書店を新設したなどの、近來稀な大型洋書店舗が相次いで開設されたことによるものであるろう。

(4) 新聞・雑誌は17.7%のダウン

'92年が前年比34.5%のアップ、194億円という史上最高の額であったので、当時から急成長のあとの急減少を予感していたが、果たして'93年は17.7%ダウンという'72年以来で見ると史上2位に当たる急落をしている。勿論これは17%の円高が大きく影響しているが、それ以外には外資上陸以来の激烈な過当競争に息切れが見えてきたことと、図書館情報システムの普及によって、資料費がシステム化費用に食いつままれてきているなどのことが考えられる。

2. 最近10年間の推移一覧

(表4) 1984～'93年、書籍・新聞・雑誌輸入通関統計推移表(指数は1980<昭和55>年を100としたもの)

(単位 百万円)

歴年	書籍			新聞・雑誌(注)			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
		%			%			%	
1984	20,874	104	91	11,006	99	98	31,880	102	93
'85	21,897	105	95	11,087	101	99	32,984	103	96
'86	18,174	83	79	9,837	89	88	28,011	85	82
'87	21,461	118	93	12,339	125	110	33,800	121	99
'88	23,143	108	101	13,591	110	121	36,734	109	107
'89	27,181	117	118	14,083	104	125	41,264	112	120
'90	33,274	122	145	16,966	120	151	50,240	122	147
'91	27,124	82	118	14,399	85	128	41,523	83	121
'92	26,597	98	116	19,360	134	172	45,957	111	134
'93	24,109	91	105	15,928	82	144	40,037	87	118

(注) 1988(昭和63)年から、雑誌に新聞が含まれたため、'87以前の数字は、すべて新聞含みの数字に訂正してある。

3. 主要6カ国の1993年1～12月、書籍・新聞・雑誌の輸入通関統計表

(表5) 主要6カ国の品目別内訳

(単位 百万円)

国名	書 籍				新聞・雑誌			
	単一シート	辞・事典	その他	計	週4回以上	新聞	雑誌・定刊	計
米	9	111	9,115	9,235	1	3	6,100	6,104
英	14	104	5,430	5,548		1	3,326	3,327
独	8	3	3,106	3,117			1,509	1,509
仏	1	10	800	811			684	684
オランダ	8	3	875	886			2,136	2,136
スイス		6	367	373			427	427
小計	40	237	19,693	19,970	1	4	14,182	14,187
その他の国	74	310	3,755	4,139	106	9	1,626	1,741
計	114	547	23,448	24,109	107	13	15,808	15,928

[分析]

新聞が主要6カ国で400万円、全体でも1,300万円(表2参照)というのはいかにも少なすぎる。もっと沢山入っているように思える。

(表6) 主要6カ国の集計

(単位 百万円)

国名	書籍			新聞・雑誌(注)			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
		%	%		%	%		%	%
米	9,235	95	38	6,104	92	38	15,339	94	38
英	5,548	82	23	3,327	74	21	8,875	79	22
独	3,117	92	13	1,509	79	10	4,626	87	12
仏	811	78	3	684	86	4	1,495	82	4
オランダ	886	100	4	2,136	75	13	3,022	81	7
スイス	373	71	2	427	54	3	800	61	2
小計	19,970	89	83	14,187	81	89	34,157	86	85
その他の国	4,139	97	17	1,741	94	11	5,880	95	15
計	24,109	91	100	15,928	82	100	40,037	87	100.0

(注1) 書籍は単一シート、辞・事典、その他を含む。

新聞・雑誌は、週4回以上発行するものを含む。

(注2) ドイツは1991年より東西ドイツ合併の数字を用いている。

[分析]

前年比21%減という英国は、英ポンドの25.1%円高(表7参照)によるもの。

スイスの減少がひどい。

米国は、円高点を差し引くと、出版社のインボイス価格では6%のアップ。些少なから日本の黒字減らしに貢献している。

4. 主要6ヵ国為替相場の動向と洋書輸入額への影響

(表7) 1993年1～12月、主要6ヵ国の平均為替相場の前年比とその他の国前年比の推定、及び年間洋書輸入額構成比に応ずる各国相場前年比の加重平均

通貨	'92, 年間平均為替相場	'93, 年間平均為替相場	前年比	'93, 年間洋書輸入額構成比	'93, 年間円高、円安の加重平均
U.S \$	127.64	112.09	12.2%の円高	38	4.6%の円高
Stg. £	228.06	170.78	25.1%の "	22	5.5%の "
D.M.	82.04	67.95	17.2%の "	12	2.1%の "
F.FR.	24.36	20.05	17.7%の "	4	0.7%の "
D.GL.	72.84	60.47	17.0%の "	7	1.2%の "
S.FR.	91.33	76.06	16.7%の "	2	0.3%の "
小計				85	14.4%の "
その他の国			推定 17.0%の "	15	2.6%の "
総 計				100	17.0%の円高

お知らせ

神田郵便局仮舎移転のお知らせ

新局舎完成までの間(平成6年3月22日～平成9年6月頃まで)下記2カ所に分けて各々業務を行います。

移転先—1 千101 千代田区神田淡路町2-2

業務内容

郵便物の引受け、切手・印紙等の販売、保管郵便物のお渡し、郵便物の承認申請
郵便貯金および簡易保険の全ての業務

電話番号

郵便料金について ☎3257-6430

郵便貯金について ☎3257-6466

簡易保険について ☎3257-6474

移転先—2 千100 千代田区丸の内1-8

業務内容

別納・後納大口郵便物等の引受け、郵便物の時間外引受け、郵便物の承認申請(第三

(注) 円高、円安率の計算は次の式によった。

$$\frac{\text{前年同期}-\text{当年}}{\text{前年同期}} \times 100$$

(表8) 1986～1993年の洋書輸入価額の国別構成比による為替相場の加重平均前年比と、洋書輸入価額計前年比の対比表

項目	1986	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93
為替相場加重平均の前年比	18.4%の円高	5.7%の円高	8.6%の円高	2.9%の円安	13.4%の円安	7.6%の円高	4.6%の円高	17.0%の円高
洋書輸入価額計の前年比	85%	121%	109%	112%	122%	83%	111%	87%

[分析]

今回の円高の特徴は、米国の円高率が少なく、英・独・仏・蘭・スイス及びその他の国が多いことである。殊にスエーデン、イタリアは3割を越し、スペインと英国がこれに次ぐ。一方で東南アジア諸国は10%程度の低率であった。

(後編に続く)

種)、郵便物の配達

電話番号

郵便物の取扱に関すること

* 普通郵便物 ☎3201-8977

* 書留・小包郵便物 ☎3201-8985

配達について ☎3201-8990

訂正

先月号(3月号)の洋書輸入協会史略の中で、理事会懇親旅行の記念写真中、参加者の氏名の記載が間違っておりました。ここにお詫びし下記の通り訂正します。

前列向かって左から2番目

誤: 海外書籍貿易 野崎様

正: 海外出版貿易 住吉様

JBIA DIRECTORY 1994

(洋書輸入協会ダイレクトリー1994年版)

25.7×18.2cm 350頁 会員価格 2,500円(送料共)
一般価格 4,500円(")
海外価格 8,000円(")

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆日本における近代美術教育の発祥

日本人が初めて西洋絵画と出会ったのは、フランシスコ・ザビエルが将来した聖母子像であったという。江戸末期、幕府は蕃書調所に画学局を設置して川上冬崖が西洋画の研究を命ぜられ、彼はオランダの書物をもとに画法を学習した。画学局には近代日本における西洋画の開拓者となる高橋由一も在籍して冬崖の指導を受けた。彼はイラストレーテッド・ロンドン・ニュース特派員として来日したイギリスの画家チャールズ・ワーグマンにも師事し、また独自に油絵の技術を開拓して優れた油絵作品を描き、黎明期洋画家として偉大なる足跡を残す。

さて、政府は殖産興業政策を推進するために工部省に工学寮を設置したが、やがて近代的な文化国家を築く上で美術教育の必要性が認識されるようになって来た。そういう情勢の中で、駐日イタリア公使アレッシンドロ・フェ伯爵は、時の工部卿伊藤博文にイタリアが美術に優れていることを説き、美術教師をイタリアから招請するよう強く建言した。その結果、彫刻はラグーザ、絵画のフォンタネージ、建築でカベレッティなど第1級の美術家の来日が実現する。そして、政府は明治9年に官立美術学校「工部省工学寮美術学校」を創立し、ここに本格的な近代美術教育が開始されることになった。この美術学校ではヨーロッパの正統的美術技法の教育が行われ、特に絵画ではフォンタネージ (Antonio Fontanesi, 1818-1882) の薫育で、小山正太郎、浅井忠、山本芳翠など明治洋画界を担う重鎮が育っていく。フォンタネージはバルビゾン派の影響を受けた画家で、明治9年に赴任して工部美術学校で教鞭を開始してから明治11年の帰国まで男子33人、女子6人の生徒が育ち、我が国における西洋画の確立に尽力してその影響は現代にまで及び、明治中期の大画伯黒田清輝に匹敵するとまで言われている (隈元謙次郎『お雇い外国人』第16巻：美術)。彼の教え子の中で、小山正太郎は美術教育や美術行政で優れた活動を行い、彼の教育で中村不折などが育ち、浅井忠は東京美術学校、また京都工芸学校の教授を務めて関西画壇の指導者として活躍し、彼の門下からは安井曾太郎や梅原龍三郎など次代を担う画家が生まれる。

工部美術学校でフォンタネージに師事した山下りんは、次世代の洋画家を育てることはなかったが、聖像画家としての彼女の生涯には深い感懷を覚える。彼女はお茶の水のハリスト正教会のニコライ主教に見いだされて洗礼を受け、彼の勧めでペテルブルグ修道院に留学し、まるで受難のような苦しい修道院生活を送りながらギリシャ正教のイコンの技法を学ぶ。帰国後は日本でただ一人の聖画家としてハリスト正教会で聖画を描き続け、晩年は故郷笠間で淋しく一生を終えた。ちなみに、明治24年にロシア皇太子が来日し、滋賀県大津で暴漢に襲われた大津事件は明治日本が震え上った大事件であったが、皇太子に献上するイコンを画いたのは山下りんであった。

ともあれ、こうして出発した近代美術教育は、西南戦争による政府財政の窮迫などが原因で、明治16年に閉校された。ちょうどこの頃、伝統的な日本画擁護論が盛んに叫ばれるようになり、美術学校の閉鎖とあいまって洋画は一時逼塞することになった。しかし、明治18年に文部省に図画取調掛が設置されて、岡倉天心やこの時代の日本画壇に影響力のあったフェノロサなどが委員となり、この2名のヨーロッパ視察旅行に基づいて明治20年に東京美術学校が設立された。設立に当たって、日本美術と西洋美術との関係が大きな問題となったが、東京美術学校は岡倉天心の国粹主義思想に性格づけられて発足する。そのため、最初洋画や洋風彫刻の科目は含まれず、日本画の橋本雅邦、狩野友信などが教授を務め第1回の卒業生には、横山大観、大村西崖などが見られる。西洋画科が設けられたのはようやく明治29年になってからで、黒田清輝、藤島武二、岡田三郎助などが指導にあたった。女子美の校長藤田文蔵が教授となる塑造科が彫刻科の中に設置されたのは明治32年であった。こうして日本近代における美術教育の国家的な拠点が定まり、それ以降の美術家の育成、美術運動の中心的な機関となる。

菊富士ホテルをめぐり、想いが広がるままに筆を走らせてつい回を重ねてしまった。それにしても、この小さなホテルの不思議な歴史に今改めて驚きを覚えている。それだけに、菊坂を見下ろす台地の一隅にひっそりと立っている菊富士ホテルの碑が、妙に寂しく感じられる。

Oxford University Press

**オックスフォード英語大辞典 CD-ROM
マッキントッシュ版 好評発売中!!**

The Oxford English Dictionary 2/e on Compact Disc for the Macintosh

System requirements: Motorola 68030 processor/ System 6.07 or above/
TrueType™ font extension software (this is built into System 7™ and above)/
2 Mb free RAM/ Mac compatible CD drive/ CD system driver vs. 4.0. or higher
(to read ISO 9660 CDs)/ Black-and-white or colour monitor (12 inch minimum)

本体価格 138,600 円

待望のショーター 改訂第4版刊行!!

The New Shorter Oxford English Dictionary 2 Vols

ショーター (SOED) の通称でしたしまれてきた縮約版 OED が、オックスフォード英語大辞典 (OED) 第2版の資料と、最近出版された OED Additions Series の資料を基に、12年の歳月を費やして改訂されました。収録語彙数22万語、主見出し語9万7千語余、定義数50万、引用例句8万3千で、OED 全20巻の真髄を2巻にまとめあげています。全2巻セット

普及版 本体価格 16,800 円 爪付き版 本体価格 19,600 円



オックスフォード大学出版局

〒171 東京都豊島区要町2-4-8 Tel 03-5995-3901

1994年4月

通巻第323号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所=藤本綜合印刷株式会社